JP04278088A

MicroPatent Report

DNA FRAGMENT CONTAINING GENE CAPABLE OF CODING BIOTIN SYNTHETASE AND ITS UTILIZATION

[71] Applicant: MITSUBISHI PETROCHEM CO LTD

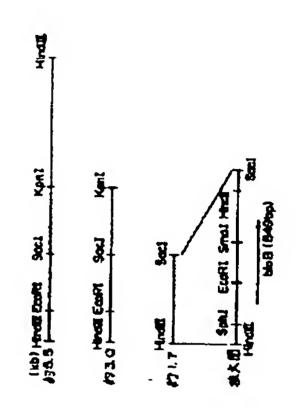
[72] Inventors: HATAKEYAMA KAZUHISA; KOHAMA KEIKO; HOSOGANE MAYUMI;

KOBAYASHI MIKI . . .

[21] Application No.: JP03062563

[22] Filed: 19910304

[43] Published: 19921002



Go to Fulltext

[57] Abstract:

PURPOSE: To provide a method for analyzing and isolating a gene participating in biosynthesis of biotin in a coryneform bacterium, transducing the aforementioned gene into a coryneform bacterium of the same species and efficiently obtaining the aforementioned genetic product from the coryneform bacterium. CONSTITUTION: A DNA fragment containing a gene capable of coding biotin synthetase is isolated from a strain of Brevibacterium.flavum MJ-233 and the base sequence of the resultant gene is determined. The biotin synthetase is highly produced by the Brevibacterium. flavum MJ-233 transformed with a plasmid capable of replicating and proliferating in a coryneform bacterium into which the DNA fragment containing the gene capable of coding the aforementioned biotin synthetase is introduced. COPYRIGHT: (C)1992, JPO&Japio

[51] Int'l Class: C12N01552 C12N00121 C12N00900 C12N01577 C12N01552 C12R00113 C12N01552 C12R00115 C12N00121 C12R00113 C12N00121 C12R00115 C12N00900 C12R00113 C12N00900 C12R00115



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平4-278088

(43)公開日 平成4年(1992)10月2日

(51) Int.Cl. ⁵ C 1 2 N 15	5/52	識別配号 ZNA	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
1	1/21		7236-4B		
	9/00 5/77		7823-4B		
			8828-4B	C 1 2 N	15/00 A
				來 信未 來 能查審	計求項の数10(全 20 頁) 最終頁に続く
(21)出願番号	特	質平3-62563		(71) 出願人	000006057 三菱油化株式会社
(22)出顧日	平月	平成3年(1991)3月4日			東京都千代田区丸の内二丁目5番2号
				(72)発明者	畠山 和久
					茨城県稲敷郡阿見町中央8丁目3番1号三 菱油化株式会社筑波総合研究所内
				(72)発明者	小浜 恵子
					茨城県稲敷郡阿見町中央8丁目3番1号三
					菱油化株式会社筑波梯合研究所内
				(72) 発明者	細金 真由美
					茨城県稲敷郡阿見町中央8丁目3番1号三
					菱油化株式会社筑波総合研究所内
				(74)代理人	弁理士 小田島 平吉 (外1名)
					最終頁に続く

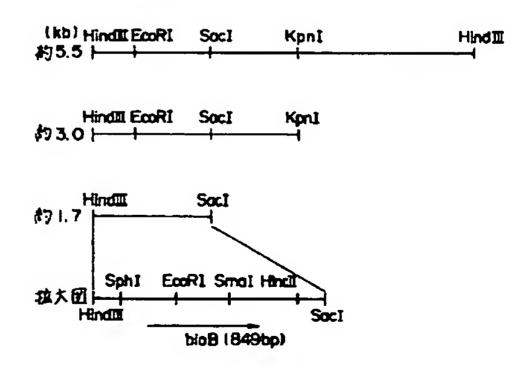
(54) 【発明の名称】 ビオチンシンセターゼをコードする遺伝子を含むDNA断片およびその利用

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 コリネ型細菌のピオチン生合成に関与する遺伝子を解析・単離し、該遺伝子を同種であるコリネ型細菌に導入し、該遺伝子産物を効率的にコリネ型細菌から取得する方法の提供。

【構成】 プレビバクテリウム・フラバムMJ-233 株からピオチンシンセターゼをコードする遺伝子を含む DNA断片を単離し、この遺伝子の塩基配列を決定した。

【効果】 上記ピオチンシンセターゼをコードする遺伝子を含むDNA断片を導入したコリネ型細菌内で複製増殖可能なプラスミドで形質転換されたプレビバクテリウム・フラバムMJ-233は、ピオチンシンセターゼを高産生した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 コリネ型細菌由来のビオチンシンセター ゼをコードする遺伝子を含むDNA断片。

【請求項2】 コリネ型細菌がピオチン要求性の菌株である請求項1記載のDNA断片。

【請求項3】 ピオチン要求性のコリネ型細菌がプレビ パクテリウム・フラパム (Brevibacterium [lavum) M* * J-233である請求項2記載のDNA断片。

【請求項4】 大きさが約5.5kb、約3.0kbまたは約1.7kbである請求項2記載のDNA断片。

【請求項5】 次のDNA塩基配列で表されるピオチンシンセターゼをコードする遺伝子DNA断片。

[化1]

ATGACANTCC CCGCCACCAT CCTTGACACC GCCGGCACCC AAGTTCTGGA ACAGGGAATT 80 GGCCTTAATC ASCAGCASTT GATGGAGGTT CTCACCTTGC CTGAAGAGCA AATCCCAGAC 120 TIGATGGAAT TAGCCCACCA GGTTCGGTTG AAGTGGTGTG GAGAGGAAAT CGAGGTAGAG 180 GGCATTATTY CCCTCARAAC IGGCGGTTGC CCIGARGATT GCCATTTCTG CTCACAGTCT 240 GGGTJGTTTG AATCGCCGGT GGCTTCGGTG TGGCTGGATA TICCGAATCT GGTTGAAGCC 300 SCTAMACAGA COGCAMANO IGGOGOTACO GANTICENTI ICETOGOGGO ASTONAGEGG 350 CCTEATEARA GECTCATEAC CCAECTEGAG GAAGCAETCC TCGCGATTCA CTCTGAAGTT 420 GALATIGNAG TOGOLOGOATO ENTOGONACO TINNATANGO NACAGGIGGA TOGOCIOGOT 480 GCTGCCGGCG TGCACCGCTA CAACCATAAT TIGGAAACTG CGCGTTCCTA TITCCCTGAA 540 GTTGTEACCA CTCATACATG GGAAGAECGC CGCGAAACTT TGCGCCTGGT GGCAGAAGCT 600 GGAATEGAAG TCTGTTCCGG CGGAATCTTA GGAATGGGCG AAACTTTAGA GCAGCGCGCC 880 CAGITICCCC TCCACCTGCC GGACCITGAT CCCCACGAAG TCCCCATGAA CTTCCTTGAT 720 CCTCGCCCGG GCACCCCATT TGCCGATAGG AATSTATGGA CAGCCGTGAC GCTCTGGCCT 780 CATATIGGIG COTTCCGCCT TGCGATGCCT CACACCATEC TTCGTTTTGC TGGCGGTCGC 840 GASCIGACIT IGGSCGACAA GGGITCCGAG CAASCCCTCC TGGGAGGCAT CAAIGCGATG 800 ATCGTCGGAA ACTACCTGAC CACGCTCGGC CGCCCAATGG AAGATGACCT CGACATGATG 860 GATCGICTCC AGCTGCCCAT CAAAGTCCTT AATAAGGTCA TCTAA 1005

【請求項6】 次のアミノ酸配列に表されるピオチンシ 【化2】 ンセターゼをコードする遺伝子DNA断片。

Het The Ile Pro &ia The Ile Lea Asp The Ala arg The Gla Val Lea 5 i Glu Gln Gly lle Gly Leu Ann Glu Glo Glo Leo Met Glu Val Leu Thr 20 Leu Pro Glu Glu Glu Ile Pro Asp Leu Het Glu Lee Ala His Glu Val 35 45 Arg Leu Lys Trp Cys Gly Glu Glu He Glu Val Glu Gly He He Ser 50 55 60 Leu Lys Thr Gly Gly Cys Pro Glu Asp Cys Ris Phe Cys Ser Gla Ser Gly Len Phe Gla Ser Pro Val Ala Ser Val Trp Leu Asp lle Pro Asn Lew Val Glo Ala Ala Lys Glo Tor Ala Lys Thr Gly Ala Thr Glo Pho 105 Asp Pho Val Ala Ala Val Lys Gly Pro Asp Glu årg Leu Het Thr Gla 120 Les Glu Glu Ala Val Les Ala Ile Bis Ser Gle Val Gle Ile Gle Val 130 135 140 Ala Ala Ser lle Gly Thr Leu Asn Lys Glo Glo Val Asp Arg Los Ala 145 150 155 160 Ala Ala Gly Val His Arg Tyr Asn His Asn Leu Glu Thr Ala Arg Ser 165 170 175 Tyr Phe Pro Gla Val Val Ibr Tbr His Thr Trp Gla Gla årg årg Gla 185 The Leu Arg Leu Val Ala Glu Ala Gly Net Glu Val Cys Ser Gly Gly Ile Leo Gly Met Gly Gla Thr Leo Gla Gla Arg Ala Glo Phe Ala Val 210 215 Glo Leu Ala Glo Leu Asp Pro Asp Glo Val Pro Net Asp Phe Leu Asp 【化3】 225 230 235 240 Pro Arg Pro 6ly Thr Pro Phe Ala Asp Arg Asm Val Trp Thr Ala Val 245 250 255 Thr Lon Trp Pro His Ile Sly Ala Phe Arg Lou Ala Not Pro His Thr 280 **765** Net Les Arg Phe Ala Gly Gly Arg Glo Leu Thr Leu Gly Asp Lys Gly 275 283 285 Ser Glu Gla Ala Leu Lou Gly Gly Ile aso Ala Met Ile Val Gly aso 795 300 Tyr Leu Thr Thr Leu Gly Arg Pro Het Glu Asp Asp Leu Asp Het Het 310 315 320 asp Arg Leu Glm Leu Pro Ile Lys Val Leu Aso Lys Val Ile

【請求項7】 請求項1~6のいずれかに記載されたD NA断片が導入された組換えプラスミド。

3

【請求項8】 請求項1~6のいずれかに記載されたDNA断片と、プラスミドpBY503に由来するコリネ型細菌内で複製増殖機能を司る遺伝子を含むDNA断片及び安定化機能を司る遺伝子を含むDNA断片を保有する組換えブラスミド。

【請求項9】 請求項7~8のいずれかに記載の組換え プラスミドで形質転換されたコリネ型細菌。

【請求項10】 請求項9記載のコリネ型細菌を培養し、培養物中にピオチンシンセターゼを生成せしめることを特徴とするピオチンシンセターゼの製造法。

【発明の詳細な説明】

50 [0001]

【産業上の利用分野】本発明は、ピオチンシンターゼ (すなわちデスチオビオチンからビオチンの生合成反応 に関与する酵素)をコードする遺伝子を含むコリネ型細 菌由来のDNA断片、該DNA断片を含む組換えプラス ミド、該組換えプラスミドで形質転換されたコリネ型細 菌及び眩コリネ型細菌を用いるピオチンシンセターゼの 製造法に関する。

【0002】ピオチンシンセターゼは、ピオチン生合成 に関与する酵素の一つであり、ビオチン製造における産 業上有用な酵素である。

【0003】またヒオチンは、ヒト、動物、植物及びあ る種の微生物の生育に必要とされるピタミンの1種であ り、特に皮膚代謝の調整剤として、あるいはヒトの脱毛 防止養毛剤として、あるいは、家畜飼料への添加剤とし て用いられる有用な物質である。

【0004】従来、微生物を用いたビオチンの製造法と しては、パチルス (Bacillus) 属、エシエリヒア (Esch erichia) 属、アグロパクテリウム (Agrobacterium) 属、クロモパクテリウム (Chromobacterium) 属、シユ ードモナス (Pseudomonas) 属、アースロパクター (Art 20 hrobacter)属等の微生物を用いる方法が知られている (特開昭56-160998号公報)。またこれら野生 株に人工的に突然変異を生起させてビオチン生産能を付 与する方法も提案されている(例えば H. Yawagataet a I, Agri. Bial. Chem., 47, 1611, 1983). 【0005】しかしながら、微生物を用いてビオチンを 製造しようとする場合、野生株はピオチンによる強力な フイードパツク抑制機構のため (Y. Izumi, K. Ogata, Adv. Appl. Microbial. 22, 155-157, 197 7)、ビオチンは極少量しか生成されない。また変異株 30 を用いる方法でも生成量は必ずしも満足し得るものでは なかつた。

【0006】また、工業的利用上多くの利点を有するブ レビパクテリウム属およびコリネパクテリウム属細菌を 含むコリネ型細菌のある種の菌株、例えばプレビバクテ リウム・フラバム (Brevibacterium flavum) MJ-2 33、プレビバクテリウム・ラクトフアーメンタム (Br. evibacterium lactofermentum) ATCC 13869. コリネパクテリウム・グルタミカム (Corynebacterium glutamicum) ATCC31831、プレビバクテリウム 40 ・アンモニアゲネス (Brevibacterium ammoniagenes) ATCC13745等はピオチン要求性を有しており、 ビオチンを全く生産しないことが知られている。

【0007】ピオチンの生合成に関与する遺伝子として は、エシエリヒア・コリ (Escherichia coli) 由来の遺 伝子がよく研究されており、bioA、bioB、bi oC、bioD、bioF、bioH遺伝子が存在する ことが知られている。このうち、bloAは7,8-ジ アミノペラルゴン酸アミノトランスフエラーゼ、bio

シンテターゼ、bioDはデスチオピオチンシンテター ゼ、bioFは7-ケト-8-アミノペラルゴン酸シン テターゼをそれぞれコードすることが知られ、bioH については、その働きは、まだ明らかでない(A. J. Ot suka et. al., J. Biol. Chem. 263, 19577-19585、1988)。また、bioA、bioB、 bioC、bloD、bioF遺伝子はbioABFC Dなるオペロンを形成しており、その発現は、bioA とbioB遺伝子の間に存在するオペレーターにより制 10 御されることがわかつている。また、そのオペレーター の制御は、bioA遺伝子にコードされたピオチンリプ レツサーが、ピオチンにより活性化されることによりオ ペレーターに結合し、ビオチン生合成オペロンの発現を 抑制することが知られている(J. Biol. Chem. 26 3.1013-1016.1988).

[0008]

【発明が解決しようとする課題】この発明は、コリネ型 細菌のピオチン生合成に関与する遺伝子を解析・単離 し、該遺伝子を同種であるコリネ型細菌に導入し、該遺 伝子産物を効率的にコリネ型細菌から取得することを目 的としてなされたものである。

[0009]

【課題を解決するための手段】本発明者らは、上記目的 を達成すべく鋭意研究を重ねた。その結果、ビオチン要 求性の大腸菌変異株を用いる交差相補性試験により、ビ オチン要求性のコリネ型細菌は少くともbloB、bl oA、bioDの3種のピオチン生合成に関与する遺伝 子を保有していることが明らかとなり、該遺伝子を適当 なペクタープラスミドに導入して、コリネ型細菌を形質 転換し、該コリネ型細菌を培養することにより、培養物 中に効率的にピオチン生合成に関与する酵素が生成する ことを見い出し本発明を完成するに至つた。かくして本 発明によれば、(1) コリネ型細菌由来のピオチンシン セターゼをコードする遺伝子(bloB)を含むDNA 断片、(2) 該DNA断片が導入された組換えプラスミ ド、(3) 該組換えプラスミドで形質転換されたコリネ 型細菌、(4) 該コリネ型細菌を培養し、培養物中にビ オチンシンセターゼを生成せしめることを特徴とするビ オチンシンセターゼの製造法、が提供される。

【0010】以下本発明についてさらに詳細に説明す る。本発明の「ピオチンシンセターゼをコードする遺伝 子を含むDNA断片」(以下これを「bioB断片」と 略称することがある)は、デスチオピオチンからピオチ ンへの変換反応を触媒する酵素、すなわちピオチンシン セターゼをコードする遺伝子(bioB)を含むDNA 断片である。

【0011】上記bioB断片の供給源となる微生物 は、コリネ型細菌であれば特に限定されるものではない が、一般的には、プレビパクテリウム・フラパムMJ-Bはピオチンシンセターゼ、bioCはピメリルCoA 50 233 (FERM BP-1497) およびその由来

株、プレビパクテリウム・アンモニアゲネス (Brevibac terium ammoniagenes) ATCC6871、同ATCC 13745、同ATCC13746、プレビパクテリウ ム・デバリカタム (Brevibacterium divaricatum) AT CC14020、プレビパクテリウム・ラクトフアーメ ンタム (Brevibacterium lactofermentum) ATCC1 3869、コリネバクテリウム・グルタミカム(Coryne bacterium glutamicum) ATCC31831等が有利に 使用される。

【0012】これらの供給源微生物からbloB断片を 10 調製するための基本的操作の一例を述べれば次のとおり である。

【0013】すなわち、bioB断片の調製は、上記コ リネ型細菌、例えばプレビパクテリウム・フラバム (Br evibacterium flavum) MJ-233 (FERM BP-1497)株の染色体上に存在し、この染色体を適当な **制限酵素で切断することにより生ずる切断断片の中から** 以下に述べる方法で分離、取得することができる。先 ず、プレビパクテリウム・フラバムMJ-233株の塔 養物から染色体DNAを抽出する。この染色体DNAを 20 適当な制限酵素、例えばSau3AIを用いて、DNA 断片の大きさが約20~30kbになるように部分分解す る.

【0014】得られたDNA断片をコスミドベクター、 例えばpWEl5に挿入し、このコスミドを入DNA i n vitro Packaging Kitを用いる形質導入により、bi oBの欠損した大腸菌変異株(Journal of Bacteriolog y, vol 94、p2065-2066、1967及びJou rnal of Bacteriology vol 112, p830-83 9、1972参照) に導入する。この大腸菌変異株を、 ビオチンを含まない選択培地に強沫する。

【0015】得られる形質転換株よりコスミドDNAを 抽出し、制限酵素で解析することにより挿入されたブレ ピパクテリウム・フラバムMJ-233株染色体由来の bloB断片を確認・取得することができる。 かくして 得られるbioB断片は、大きさが約20~30kbと大 きく、実用的でないので、さらに短かい断片に特定化す る必要がある。

【0016】次に、上記で得られたbioA、bioD 得られるDNA断片を、大腸菌で複製可能なペクタープ ラスミドに挿入しこのペクタープラスミドを通常用いら れる形質転換法、例えば、塩化カルシウム法、電気パル ス法による形質転換により、前記bloBの欠損した大

脇菌変異株に導入し、この大腸菌変異株をピオチンを含 まない選択培地に登沫する。

8

【0017】得られる形質転換株よりプラスミドDNA を抽出し、制限酵素で解析することにより挿入されたブ レビパクテリウム・フラバムMJ-233株染色体由来 のbioB断片を確認・取得することができる。

【0018】このようにして得られるbioB断片の一 つは、上記プレビバクテリウム・フラパムMJ-233 株の染色体DNAを制限酵素Sau3AIの部分分解に より切り出し、さらにそれを制限酵素Hind IiI で 切り出すことによつて得られる大きさが約5.5kbのD NA断片を挙げることができる。

【0019】この約5.5kbのピオチンシンセターゼを コードする遺伝子を含むDNA断片を、各種の制限酵素 で切断したときの認識部位数及び切断断片の大きさを下 記表1に示す。

【0020】なお、本明細書において、制限酵素による 「認識部位数」は、DNA断片又はプラスミドを、過剰 の制限酵素の存在下で完全分解し、それらの分解物をそ れ自体既知の方法に従い1%アガロースゲル電気泳動お よびポリアクリルアミドゲル電気泳動に供し、分離可能 な断片の数から決定した値を採用した。

【0021】また、「切断断片の大きさ」及びプラスミ ドの大きさは、アガロースゲル電気泳動を用いる場合に は、エシエリヒア・コリのラムダフアージ(λ phage) のDNAを制限酵素Hind IIIで切断して得られる 分子量既知のDNA断片の同一アガロ-スゲル上での泳 動距離で描かれる標準線に基づき、また、ポリアクリル アミドゲル電気泳動を用いる場合には、エシエリヒア・ コリのフアイ・エツクス174フアージ(øx174ph age)のDNAを制限酵素Hae IIIで切断して得ら れる分子量既知のDNA断片の同一ポリアクリルアミド ゲル上での泳動距離で描かれる標準線に基づき、切断D NA断片又はプラスミドの各DNA断片の大きさを算出 する。プラスミドの大きさは、切断断片それぞれの大き さを加算して求める。なお、各DNA断片の大きさの決 定において、1kb以上の断片の大きさについては、1% アガロースゲル電気泳動によつて得られる結果を採用 し、約0.1kbから1kb未満の断片の大きさについては 断片を含むコスミドを適当な制限酵素を用いて切断し、 40 4%ポリアクリルアミドゲル電気泳動によつて得られる 結果を採用した。

[0022]

【表1】

表 1

制限酵素	認識部位数	切断断片の大きさ (kb)			
Kpn I	1	3.0 . 2.5			
Sac I	1	1.7 . 3.8			
EcoR I	1	0.6 . 4.9			

上記表1中、3.0kbのKpn I切断断片、1.7kbのSac I切断断片もまたピオチンシンセターゼをコードすることが確認されており、従つてこれらの切断断片もまた、本発明のピオチンシンセターゼをコードする遺伝子を含むDNA断片に包含されるものである。

【0023】かくして、ピオチンシンセターゼをコード する遺伝子は、プレビパクテリウム・フラパムMJ-2 33の染色体DNAを制限酵素Hind IIIおよびK pnIで切り出すことにより得られる大きさが約3.0k bのDNA断片、および同染色体DNAを制限酵素Hi*10

*nd IIIおよびSacIで切り出すことにより得られる大きさが約1.7kbのDNA断片中に含まれているものと考えられる。

10

【0024】上記約3.0kbのDNA断片および約1.7kbのDNA断片を、さらに各種の制限酵素で切断したときの認識部位数および切断断片の大きさを、各々下記表2および表3に示す。

[0025]

【表2】

表 2

制限酵素	認識部位数	切断断片の大きさ	(kb)
Sac I	1	1.7 , 1.3	
EcoR I	1	0.6 . 2.4	

[0026]

【表3】

表 3

制限酵素	認識部位数	切断断片の大きさ(kb)
Sph I	1	0.2 、 1.5
EcoR I	1	0.6 . 1.1
Sma I	1	1.0 . 0.7
Hinc I I	1	1.5, 0.2

一方、上記したプレビバクテリウム・フラバムMJ-233の染色体DNAを制限酵素Hind Illおよび Saclで切り出すことにより得られる大きさが約1.7kbのDNA断片については、その塩基配列をプラスミドpUC18またはpUC19を用いるジデオキシヌクレオチド酵素法 (dideoxy chain termination 法) (Sanger, F. et al., Proc. Nat. Acad. Sci. USA 74、305463、1977)により決定することができる。こ

のようにして決定した上記約1.7kbのDNA断片の塩基配列中のオープンリーデイングフレームの存在から決定したピオチンシンセターゼをコードする遺伝子(b1 oB)は、次の配列を有しており、334のアミノ酸をコードする1002の塩基対から構成される:

[0027]

0 [K4]

12 11 ATG ACA ATC CCC GCC ACC ATC CTT GAC ACC GCC CGC ACC CAA GTT CTG 48 Met Thr lle Pro Ale Thr lle Leu Asp Thr Ale arg Thr Gle Val Lee l 15 10 GAA CAG GGA ATT GGC CTT AAT CAG CAG CAG TTG ATG GAG GTT CTC ACC 98 Glo Glo Gly Ilo Gly Leu Asn Glo Glo Glo Leu Met Glo Val Lou Thr 20 30 TTG CCT GAA GAG CAA ATC CCA GAC TTG ATG GAA TTA GCC CAC CAG GTT 144 Les Pro Glu Glu Glu Ile Pro Asp Les Met Glu Les Ala His Gln Val 45 CGG TTG AAG TGG TGT GGA GAG GAA ATC GAG GTA GAG GGC ATT ATT TCC 192 arg Low Lys Trp Cys Gly Glo Glo Ile Glo Val Gla Gly Ile Ile Ser 50 55 CTC ANA ACT GGC GGT TGC CCT GAA GAT TGC CAT TTC TGC TCA CAG TCT 240 Leu Lys Thr Gly Gly Cys Pro Glu Asp Cys His Phe Cys Ser Glu Ser GGE TIG TIT GAA TOG COG GTG GCT TOG GTG TGG CTG GAT ATT CCG AAT 288 Gly Lew Phe Glu Ser Pro Val Ala Ser Val Trp Lee Asp Ile Pro Asn **9**5 CTE GTT GAA GCC GCT AAA CAG ACC GCA AAA ACT GGC GCI ACC GAA TIC 338 Leu Val Glu Ala Ala Lys Glo Thr Ala Lys Thr Gly Ala Thr Glu Phe 100 105 110 GAT TEC GTG GCC GCA GTC AAG GGG CCT GAT GAG AGG CTC ATG ACC CAG 384 Asp Phe Val Ala Ala Val Lys Gly Pro Asp Glu Arg Leu Met Ihr Glo 115 120 125 CTG GAG GAA GCA STC CTC GCG ATT CAC TCT GAA GTT GAA ATT GAA GTC 432 Les Gla Gla Ala Val Leo Ala Ile His Ser Gla Val Glo Ile Gla Val 130 135 140 GCA GCA TCG ATC 3GA ACG TTA AAT AAG GAA CAG GTG GAT CGC CTC GCT 480 Ala Ala Ser lle Gly Thr Leu Asn Lys Glu Glu Wal Asp Arg Leu Ala

[0028]

30 【化5】

13 14 145 155 160 150 GCT GCC GGC GTG CAC CGC TAC AAC CAT AAT TTG GAA ACT GCG CGT TCC 528 Ala Ala Gly Val Eis Arg Tyr Asa Bis Asa Leu Glu Thr Ala Arg Ser 185 175 170 TAT TTC CCT GAA GTT GTC ACC ACT CAT ACA TGG GAA GAG CGC CGC GAA 578 Tyr Pho Pro Glo Yal Yal The The His The Trp Glo Glo Arg Arg Glo 180 185 190 ACT TTO CGC CTO GIG GCA GAA QCI GOA ATG BAA GTC TGI ICC GGC GOA 624 The Leu Arg Leu Wal Ala Glu Ala Gly Not Glu Wal Cys Sor Gly Gly 195 2G0 205 ATC TTA EGA ATG GGC GAA ACT TTA GAG CAG CGC GCC JAG TTT GCC GTG B72 Ile Leu Gly Met Gly Giu Thr Leu Glu Gln Arg Ala Glu Phe Ale Val 210 215 220 CAG CTG GGG GAG CTT GAT CCC GAC GAA GTC CCC ATG AAC TTC GTT GAT 720 Gln Leu Ala Glu Leu Asp Pro Asp Glo Val Pro Met Asa Phe Leu Asp 225 235 CCT CGC CCG GGC ACC CCA TTT GCC GAT AGG AAT GTA TGG ACA GCC GTG 788 Pro Arg Pro Gly Thr Pro Phe Ala Asp Arg Asa Val Trp Thr Ala Val 255 245 250 ACC CTC TGG CCT CAT ATT GGT SCG TTC CGC CTT GCG ATG CCT GAC ACC 818 The Lou Trp Pro Bis Ile Gly Ala Phe Arg Lev Ala Yet Pro Ris The 280 255 270 ATG CTT CGT TIT GCT GGC GGT CGC GAG CTG ACT TTG GGC GAC AAG GET 884 Not Leu Arg Pho Ala Gly Gly Arg Glu Leu Thr Leu Gly Asp Lys Gly 275 285 280 TCC GAG CAA GCC CTC CTG GGA GGC ATC AAT GCG ATR ATC GTC GGA AAC 912 Ser Glu Gla Ala Lou Lou Gly Gly Ile Asa Ala Met Ile Val Gly Asa TAC CIG ACC ACG CTC GGC CGC CCA AIG GAB GAT GAC CTC GAC ATG ATG 980 30 【化6】 Tyr Lee Thr Ibr Leu Gly Arg Pro Het Glu Asp Asp Seu Asp Hot Het 305 310 GAT COT CTC CAG CTG CCC ATC AAA GTC CYT AAT AAG GTC ATC TAA Asp Arg Leu Glo Len Pro Ile Lys Val Leo Aso Lys Val Ile

【0030】上記の塩基配列を包含して成る本発明のビ オチンシンセターゼをコードする遺伝子を含むDNA断 片は、天然のコリネ型細菌染色体DNAから分離された もののみならず、通常用いられるDNA合成装置、例え 40 ぱペツクマン社製 System-IPlus を用いて合成されたも のであつてもよい。

375

[0029]

【0031】また、前記の如くプレビパクテリウム・フ ラパムMJ-233の染色体DNAから取得される本発 明のDNA断片は、ビオチンシンセターゼをコードする 機能を実質的に損なうことがない限り、塩基配列の一部 の塩基が他の塩基と置換されていてもよく又は削除され ていてもよく、或いは新たに塩基が挿入されていてもよ く、さらに塩基配列の一部が転位されているものであつ てもよく、これらの誘導体のいずれもが、本発明のビオ 50 少くとも含むプラスミドベクターとしては、特願平2-

チンシンセターゼをコードする遺伝子を含むDNA断片 に包含されるものである。

【0032】以上に詳述した大きさが約5.5kb、約3. Okb、約1.7kbのDNA断片の制限酵素による切断点 地図を図1に示す。

【0033】本発明のビオチンシンセターゼをコードす る遺伝子を含むDNA断片(bioB断片)は、コリネ 型細菌内でプラスミドの複製増殖機能を可る遺伝子を少 くとも含むプラスミドベクターに導入することにより、 コリネ型細菌内でビオチンシンセターゼの高発現可能な 組換えプラスミドを得ることができる。

【0034】本発明のbioB断片を導入することがで きる、コリネ型細菌内での複製増殖機能を司る遺伝子を

330

(9)

16

4212号明細書に開示されているプラスミドゥCRY 30;特別平2-276575号公報に記載されている プラスミドpCRY21、pCRY2KE、pCRY2 KX. pCRY3K7, pCRY3KE, pCRY3K X;特開平1-191686号公報に記載されているプ ラスミドpCRY2及びpCRY3;特開昭58-67 679号公報に記載のpAM330;特開昭58-77 895号公報に記載のpHM1519;特開昭58-1 92900号公報に記載のpAJ655、pAJ611 載のpCG1;特開昭58-35197号公報に記載の pCG2;特開昭57-183799号公報に記載のp CG4及びpCG11等を挙げることができる。

【0035】中でもコリネ型細菌の宿主ベクター系で用 いられるプラスミドベクターとしては、コリネ型細菌内 でプラスミドの複製増殖機能を司る遺伝子とコリネ型細 菌内でプラスミドの安定化機能を司る遺伝子とをもつも のが好ましく、例えばプラスミドpCRY30、pCR Y21. pCRY2KE, pCRY2KE, pCRY2 Xが好適に使用される。

【0036】上記プラスミドベクターpCRY30を調 製する方法としては、プレビパクテリウム・スタチオニ ス (Brevibacterium stationis) IFO12144 (F **ERM BP-2515) からプラスミドpBY503** DNAを抽出(このプラスミドの詳細は特開平1-95 785号公報参照)し、制限酵素XhoIで大きさが約 4.0kbのプラスミドの複製増殖機能を可る遺伝子を含 むDNA断片を切り出し、制限酵素EcoRIおよびK pn I で大きさが約2.1kbのプラスミドの安定化機能 30 を司る遺伝子を含むDNA断片を切り出す。これらの両 断片をプラスミドpHSG298 (宝酒造製) のEco RI、KpnI部位及びSalI部位に組み込むことに より、プラスミドベクターpCRY30を調製すること ができる。

【0037】次に、上記プラスミドペクターへの本発明 のbioB断片の導入は、例えばプラスミドペクター中 に1個所だけ存在する制限酵素部位を、該制限酵素で開 裂し、そこに前記bioB断片を必要に応じてS1ヌク レアーゼで処理して平滑末端とするか、または適当なア 40 ダプターDNAの存在下にDNAリガーゼ処理で連絡さ せることにより行うことができる。

【0038】プラスミドpCRY30への本発明のbi oB断片の導入は、プラスミドpCRY30を制限酵素 EcoRIで開裂させ、そこに前記ピオチンシンセター ゼをコードする遺伝子を含むDNA断片 (bioB断 片)をSIヌクレアーゼで処理することにより平滑末端 とした後、DNAリガーゼで連結させることにより行う ことができる。

RY30に本発明のbioB断片を導入した組換えプラ スミドは、ピオチンシンセターゼの製造に好適に用いる ことができる組換えプラスミドの一つであり、本発明者 らはこれをプラスミドpCRY30-bio2と命名し た。プラスミドPCRY30-bio2の作成方法の詳 細については、後配実施例4及び5で説明する。

[0040] CのプラスミドpCRY30-bio2の 制限酵素切断点地図を図2に示す。このようにして造成 されるピオチンシンセターゼ遺伝子を含むコリネ型細菌 及びpAJ1844;特開昭57-134500号に記 10 内で複製増殖可能なプラスミドを、宿主微生物に導入し 培養することにより、ピオチンシンセターゼを安定に効 率よく生産することが可能となる。

【0041】本発明によるプラスミドで形質転換しうる 宿主微生物としては、コリネ型細菌、例えばブレビパク テリウム・フラパムMJ-233 (FERM BP-1 497)、プレビパクテリウム・フラパムMJ-233 -AB-41 (FERM BP-1498)、プレビバ クテリウム・フラバムMJ-233-ABT-11 (F **ERM BP-1500)、プレビバクテリウム・フラ** KX. pCRY3K7. pCRY3KE. pCRY3K 20 パムMJ-233-ABD-21 (FERM BP-1 499)等が挙げられる。

> 【0042】なお、上記のFERM BP-1498の **菌株は、FERMBP−1497号の菌株を親株として** DL-α-アミノ酪酸耐性を積極的に付与されたエタノ ール資化性微生物である(特公昭59-28398号公 報第3~4欄参照)。また、FERM BP-1500 号の菌株は、FERM BP-1497の菌株を親株と したLーαーアミノ酪酸トランスアミナーゼ高活性変異 株である(特別昭62-51998号公報参照)。さら に、FERM BP-1499の菌株はFERMBP-1497の菌株を親株としたD-α-アミノ酪酸デアミ ナーゼ高活性変異株である(特開昭61-177993 号公報参照)。

> 【0043】これらの微生物の他に、プレビパクテリウ ム・アンモニアゲネス (Brevibacterium ammoniagene s) ATCC6871、同ATCC13745、同AT **CC13746、プレビパクテリウム・デパリカタム** (Brevibacterium divaricatum) ATCC14020. プレビパクテリウム・ラクトフアーメンタム (Brevibac terium lactofermentum) ATCC13869、コリネ パクテリウム・グルタミカム (Corynebacterium glutam icum)ATCC31831等を宿主徴生物として用いる こともできる。

【0044】なお宿主としてプレビバクテリウム・フラ パムMJ-233由来の菌株を用いる場合、本菌株が保 有するプラスミドpBY502(特開昭63-3678 7号公報参照) のため、形質転換が困難である場合があ るので、そのような場合には、本菌株よりプラスミドp BY502を除去することが望ましい。そのようなプラ 【0039】このようにして造成されるプラスミドpC 50 スミドpBY502を除去する方法としては、例えば、

継代培養を繰り返すことにより、自然に欠失させること も可能であるし、人為的に除去することも可能である [Bact. Rev. 36 p. 361~405 (1972) 参 照]。上記プラスミドpBY502を人為的に除去する 方法の一例を示せば次のとおりである。

【0045】宿主プレビパクテリウム・フラバムMJ-233の生育を不完全に阻害する濃度のアクリジンオレ ンジ (濃度: 0.2~50 μg/ml) もしくはエチジウム プロミド (濃度:0.2~50 μg/ml) 等を含む培地 に、1回1当り約10細胞になるように植菌し、生育を不 10 完全に阻害しながら、約24時間約35℃で培養する。 培養液を希釈後寒天培地に塗布し、約35℃で約2日培 養する。出現したコロニーから各々独立にプラスミド抽 出操作を行い、プラスミドpBY502が除去されてい る株を選択する。この操作によりプラスミドpBY50 2が除去されたブレビバクテリウム・フラバムM J - 2 33由来菌株が得られる。

【0046】このようにして得られるプレビバクテリウ ム・フラバムMJ-233由来菌株への前記プラスミド の形質転換法としては、エシエリヒア・コリ及びエルビ 20 ニア・カロトポラについて知られているように [Calvi n, N. M. and Hanawalt, P.C., Journal of Bacteliolog y. 170, 2796 (1988); Ito, K., Nishida, T. and Izaki. K., Agricultural and Biological Chem istry, <u>52</u>, 293 (1988) 参照]、DNA受容 菌にパルス波を通電することによりプラスミドを導入す ることが可能である。

【0047】上記の方法で形質転換して得られるピオチ ンシンセターゼ産生能を有するコリネ型細菌、例えばブ レビパクテリウム・フラパムMJ-233由来株の培養 30 方法を以下に述べる。

【0048】培養は炭素源、窒素源、無機塩等を含む通 常の栄養培地で行うことができ、炭素源としては、例え ばグルコース、エタノール、メタノール、廃糖蜜等が、 そして窒素源としては、例えばアンモニア、硫酸アンモ ニウム、塩化アンモニウム、硝酸アンモニウム、尿素等 がそれぞれ単独もしくは混合して用いられる。また無機 塩としては、例えばリン酸ー水素カリウム、リン酸二水 素カリウム、硫酸マグネシウム等が用いられる。この他 にペプトン、肉エキス、酵母エキス、コーンステイープ 40 リカー、カザミノ酸、ピオチン等の各種ピタミン等の栄 養素を培地に添加することができる。

【0049】培養は、通常、通気撹拌、振盪等の好気的 条件下に、約20~40℃、好ましくは25~35℃の 温度で行うことができる。培養途中のpHは5~10、 好ましくは7~8付近で行い、培養中のpHの調整は酸 又はアルカリを添加して行うことができる。

【0050】培養開始時の炭素源濃度は、好ましくは1 ~5容量%、更に好ましくは2~3容量%である。ま 期間は3日間である。

【0051】このようにして得られる培養物から遠心分 **醚等により菌体を取得することができる。**

18

【0052】かくして培養された菌体は、野生株を培養 した場合に比べて、ビオチンシンセターゼをその菌体内 に多量含有している。菌体内に産生された、ビオチンシ ンセターゼの含量を調べる方法としては、例えば超音波 処理、酵素処理、ホモジナイズ等の通常用いられる手段 にて破砕し得られる無細胞抽出液を、SDSゲル電気泳 動法[例えば、「蛋白質・酵素の基礎実験法」南江堂 刊、314~333頁等参照]に付することにより、菌 体内の蛋白質を分離した後、Coomassie Brilliant Blue R-250による染色法あるいは、銀染色法により染 色した後、例えばフアルマシア社製 Ultro Scan XL レーザーデンシトメーターを用いることにより、菌体中 の各種タンパク質量を測定することができる。かくし て、菌体内に産生された、ビオチンシンセターゼ含量の 増加を測定することが可能である。

【0053】上記の如くピオチンシンセターゼを高含量 含む菌体を用いることにより、少なくともデスチオビオ チンを含有する前記通常の栄養培地で培養することによ り、高効率でピオチンを製造することができる。

【0054】本明細書では、プレビパクテリウム・フラ バムMJ-233からピオチンシンセターゼをコードす る遺伝子(bioB)を含むDNA断片を単離し、該D NA断片を導入した組換えプラスミドを同じくプレビバ クテリウム・フラパムMJ-233由来株へ導入し、該 微生物によるビオチンシンセターゼの生産館の向上につ いて主として詳述したが、プレビバクテリウム・フラバ ムMJ-233由来株の代りに前記した他のコリネ型細 菌を用いても本発明の目的は違成される。

【0055】いわゆるコリネ型細菌は、コリネバクテリ ウム属やプレビバクテリウム属等の種々の属名、種々の **菌名が付されているが主な菌学的性質を同じくしてい** る。これらの菌群は、細胞壁のアミノ酸構成やDNAの 塩基組成が画一的であり、菌種間には70~80%のD NAの相同性があり、非常に近縁な微生物であることは 明らかである (Report of the Fermentation Research Institutes No. 55, p1-5, 1980, Internatio nal Journal of Systematic Bacteriology Vol 3 1. p 131-138、1981参照)。

【0056】また、ピオチン要求性のコリネ型細菌、例 えばプレビパクテリウム・フラパムMJ-233 (FE RM BP-1497)、プレビパクテリウム・ラクト フアーメンタムATCC13869およびコリネパクテ リウム・グルタミカムATCC31831について、ビ オチン生合成に関与する各ステップの遺伝子が欠損した ビオチン要求性大腸菌変異株 (Journal of Bacteriolog y. vol 112、p830-839、1972および Jo た、培養期間は通常1~7日間とすることができ、最適 50 urnal of Bacteriology、voi 94、p2065-20

66、1967参照) との交差相補性試験 (Journal Ba cteriology, vol 96, p515-524, 1968\$ **照)により、そのピオチン生合成系路について検討した** 結果、これら3種の菌株は同様にピメリルCoAシンセ ターゼをコードする遺伝子 (bioC) および7-ケト -8-アミノペラルゴン酸シンテターゼをコードする遺 伝子(bloF)が欠損しており、また少くとも7.8 ージアミノペラルゴン酸アミノトランスフエラーゼをコ ードする遺伝子(bioA)、デスチオピオチンシンセ ターゼをコードする遺伝子 (bioD) およびピオチン 10 シンセターゼをコードする遺伝子を保有していることが 明らかとなつた。これらの事実を踏まえれば、プレビバ クテリウム・フラバムMJ-233のみならず、コリネ 型細菌全般から単離されたピオチンシンセターゼをコー ドする遺伝子(bioB)を含むDNA断片も本発明の 範囲に含まれ、また、本発明のプラスミドで形質転換し 得る宿主微生物は、プレビバクテリウム・フラバムM J -233に限らず、コリネ型細菌が全て含まれることは 明らかである。

[0057]

【実施例】以上に本発明を説明してきたが、下記の実施例によりさらに具体的に説明する。しかしながら、実施例は本発明の具体的に認識を得る一助とみなすべきものであり、本発明の範囲を限定するためのものでないことを理解しなければならない。

[0058]

【実施例1】コリネ型細菌とピオチン要求性大腸菌変異株との相補性試験

(A) コリネ型細菌を含有するピオチン欠乏最少培地プレートの作製

半合成培地A培地 [組成:尿素2g、(NH4)2SO4 7 g, K₂ HPO₄ 0.5g, KH₂ PO₄ 0.5g, MgSO₄ 0.5g. $FeSO_4 \cdot 7H_2O$ 6mg. $MnSO_4$ 4~6 H₂O 6 mg、静母エキス2.5g、カザミノ酸5g、ピオ **チン200μg、塩酸チアミン200μg、グルコース2** 08、純水11] 11に、プレビパクテリウム・フラバ ムMJ-233 (FERM BP-1497) を植菌し て、O.D.が約2.9になるまで培養し、菌体を集め た。得られた菌体をBM緩衝液 [組成:尿素2g、(N H₄)₂ SO₄ 7g, K₂HPO₄ 0.5g, KH₂PO₄ 0. 40 5g、MgSO₄ 0.5g] で2回洗浄した。この菌体を 10mlのBM観衝液に懸濁し、その内1mlを、滅菌後、 50℃に放置しておいたビオチン検定用C培地 (尿素 0.2%、硫酸アンモニウム0.7%、KH2PO4 0.0 5%, K₂HPO₄ 0.05%, MgSO₄ · 7H₂O 0. 05%. FeSO4 · 7H2O 6ppm. MnSO4 · 4~ 6 H₂ O 6 ppm、チアミン・HCl 100 μg/l、ピ タミン・アツセイ用カザミノ酸0.1%、グルコース0. 2%、寒天1.0%) に添加し、撹拌後、プレートに液 し、固化した。

20

【0059】同様にして、プレビパクテリウム・フラパムMJ-233 (FERM BP-1497) の代わりに、プレビパクテリウム・ラクトフアーメンタムATCC13869、あるいは、コリネパクテリウム・グルタミカムATCC31831を用いて各種のコリネ型細菌を含んだビオチン欠乏最少培地プレートを作製した。

(B) ビオチン要求性大腸菌変異株との相補性試験 ビオチン生合成系路の各ステップの欠損したビオチン要 求性大腸菌変異株と各種コリネ型細菌との相補性試験に より、各種コリネ型細菌のビオチン生合成系路を推定す ることができる。

【0060】上記(A)で作製した、3種のコリネ型細菌含有ビオチン欠乏最少培地のプレートに、各種ビオチン要求性大腸菌変異株を線状に植菌した。用いたビオチン要求性大腸菌変異株は、エシエリヒア・コリ(Escherichia coli) R873(bioA4)、同R874(bioF12)、同R875(bioB17)、同R876(bioC18)、同R877(bioC19)である[()内は各菌株の遺伝子型(Genotype)を示す、またこれらの菌株の詳細および取得方法については、Jo

またこれらの菌株の詳細および取得方法については、Journal of Bacteriology、vol 94、p2065-2066(1967)、Journal of Bacteriology、vol 112、p830-839(1972)参照)。

【0061】これらのピオチン要求性大腸菌変異株とコリネ型細菌が相補した場合は、コリネ型細菌がピオチン欠乏最小培地のプレート中に生育し、黄色いコロニーを形成する。各種ピオチン要求性大腸菌変異株に対応するコリネ型細菌のコロニー形成の有無により、コリネ型細菌がピオチン生合成に関与する遺伝子のどの部分を欠損し、その部分を保有しているか容易に判別することができる。

【0062】本相補試験の結果、プレビパクテリウム・フラバムMJ-233 (FERMBP-1497)、プレビパクテリウム・ラクトフアーメンタムATCC13869、コリネパクテリウム・グルタミカムATCC31831は、各菌株共、エシエリヒア・コリR873(bioA4)、同R875(bioB17)、同R876(bioD19)を相補したが、同R874(bioF12)、同R876(bioC18)を相補しなかつた。即ち、各々のコリネ型細菌は、少なくとも、同様に7,8-ジアミノペラルゴン酸アミノトランスフエラーゼをコードする遺伝子(bioA)、デスチオビオチンシンセターゼをコードする遺伝子(bioD)およびビオチンシンセターゼをコードする遺伝子(bioB)を有していることが明らかとなつた。

[0063]

【実施例2】プレビバクテリウム・フラバムMJ-23 3由来のビオチンシンセターゼをコードする遺伝子(b 1 o B)を含むDNA断片のクローン化

50 (A) プレピパクテリウム・フラパムMJ-233の全

DNAの抽出

半合成培地A培地 [組成: 尿素 2g、 (NH4)2 SO4 7 g. K2HPO4 0.5g, KH2PO4 0.5g, MgSO4 0.5g. $FeSO_4 \cdot 7H_2O$ 6mg. $MnSO_4$ $4\sim6$ H₂O 6 mg、酵母エキス2.5g、カザミノ酸5g、ビオ **チン200μg、塩酸チアミン200μg、グルコース2** 0g、純水11] 11に、プレビパクテリウム・フラバ ムMJ-233 (FERM BP-1497) を対数増 殖期後期まで培養し、菌体を集めた。得られた菌体を1 0 mg/回の濃度にリゾチームを含む 1 0 ml NaCl- 10 20mlトリス緩衝液 (pH8.0) - 1ml EDTA-2N a溶液15mlに懸濁した。次にプロテナーゼKを、最終 濃度が100μg/mlになるように添加し、37℃で1 時間保温した。さらにドデシル硫酸ナトリウムを最終激 度が0.5%になるように添加し、50℃で6時間保温 して容菌した。この溶菌液に、等量のフェノール/クロ ロホルム溶液を添加し、室温で10分間ゆるやかに振盪 した後、全量を遠心分離(5,000×g、20分間、 10~12℃)し、上清画分を分取し、酢酸ナトリウム を 0.3 Mとなるように添加した後、2倍量のエタノー 20 ルをゆつくりと加えた。水層とエタノール層の間に存在 するDNAをガラス棒でまきとり、70%エタノールで 洗浄した後、風乾した。得られたDNAに10페トリス 緩衝液(pH7.5) - 1 mH EDTA・2Na溶液5mlを 加え、4℃で一晩静置し、以後の実験に用いた。

【0064】 (B) 組換え体の創製

上記(A)項で得たプレビバクテリウム・フラバムM J - 233の全DNA90µlを制限酵素Sau3AI1 unitを用い、37℃で20分間反応させ部分分解した。この部分分解DNAにコスミドpWE15 (ストラダジ 30-ン社製)を制限酵素BamHIで切断した後、脱リン酸化処理したものを混合し、50mlトリス緩衝液 (pH 7.6)、10mlジチオスレイトール、1ml ATP、10ml MgCl2及びT4DNAリガーゼ1unitの各成分を添加し(各成分の濃度は最終濃度である)、4℃で15時間反応させ、結合させた。

【0065】(C) ピオチン生合成に関与する酵素をコードする遺伝子を含むコスミドの選抜

上記 (B) 項で得たコスミド混液を用い、前記エシエリヒア・コリR 8 7 5 (b i o B 1 7) 株を形質導入し、アンピリシン 5 0 ∞を含む選択培地 [K₂ H P O₄ 7g、K H₂ P O₄ 2g、(N H₄)₂ S O₄ 1g、Mg S O₄・7 H₂ O 0.1g、カザミノ酸 1 0g、グルコース 2 g 及び寒天 1 6 g を蒸留水 1 l に溶解] に塗沫した。なお形質導入には、宝酒造より販売されている λ D N A in vitro Packaging Kit を用いて行つた。培地上の生育株を常

法により、液体培養し、培養液よりコスミドDNAを抽出し、該コスミドを制限酵素により切断し、アガロースゲル電気泳動を用いて調べたところ、コスミドpWE15の長さ8.8kbのDNA断片に加え、長さ約30kbのDNA断片が認められた。本コスミドをpWE15-bio2と命名した。

【0066】(D) ピオチンシンセターゼをコードする 遺伝子を含むDNA断片(bioB断片)のプラスミド pHSG399へのサブクローニング

0 上記(C)項で得たコスミドpWE15-bio2に含まれるDNA挿入断片は約30kbと大きく、実用的でないので、得られた断片のうち必要な部分だけに小型化するために、プラスミドpHSG399(宝酒造より市販)ヘビオチンシンセターゼをコードする遺伝子を含むDNA断片を下記のとおりサブクローニングした。

【0067】上記(C)項で得たコスミドpWE15-bio2を制限酵素Hind IIIで切断したものと、プラスミドpHSG399を制限酵素Hind IIIで切断したものを混合し、50mMトリス級衝液(pH7.6)、10mジチオスレイトール、1mM ATP、10mM MgC12及びT4DNAリガーゼ1unitの各成分を添加し(各成分の濃度は最終濃度である)、12℃で15時間反応させ、結合させた。

【0068】得られたプラスミド混液を用い、塩化カルシウム法(Journal of Molecular Biology、53、159、1970)によりエシエリヒア・コリR875(bioB17)株を形質転換し、クロラムフエニコール50或を含む選択培地 [K2HPO47g、KH2PO42g、(NH4)2SO41g、MgSO4・7H2O0.1g、カザミノ酸10g、グルコース2g及び寒天16gを蒸留水11に溶解]に塗沫した。

【0069】この培地上の生育株を常法により液体培養し、培養液よりプラスミドDNAを抽出し、該プラスミドを制限酵素により切断し、アガロースゲル電気泳動を用いて調べたところ、プラスミドpHSG399の長さ2.2kbのDNA断片に加え、長さ約5.5kbの挿入DNA断片が認められた。各種の制限で切断したときの、長さ約5.5kbのDNA断片の制限酵素認識部位数および切断断片の大きさは前記表1に示したとおりであつた。このDNA断片の特別様素が開発を関することである。このDNA断片の特別様素が開発を関することであった。このDNA断片の特別様素が開発を関することである。このDNA断片の特別様素が開発を関することである。このDNA断片の特別様素が開発を関することである。このDNA断片の特別様素が開発を関することである。このDNAMにより表現は表現は表現したこま

40 このDNA断片の制限酵素切断点地図を図1に示す。

【0070】また上記で得たプラスミドを各種制限酵素で切断して、切断断片の大きさを測定した。その結果を下記の表4に示す。

【0071】 【表4】

表4 _プラスミドpHSG399-bioB5.5

- > > \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \				
制限酵素	認識部位数	切断断片	の大きさ(kb	<u>)</u>
Hind I I I	2	5.5.	2. 2	
Sac I	2	6.0	1 7	

Kon 1

2

4.7 . 3.0

上記の制限酵素により特徴づけられるプラスミドをp HSG399-bioB5.5と命名した。

【0072】以上により、ピオチンシンセターゼをコー ドする遺伝子(bioB)を含む大きさが約5.5kbの DNA断片(Hind III断片)を得ることができ た。

【0073】(E) ピオチンシンセターゼをコードする 遺伝子を含むDNA断片(bioB断片)のプラスミド 10 塗沫した。 pBluescript II へのサブクローニング

上記(D)項で得たプラミドpHSG399-bloB 5.5は、bioBを含む長さが約5.5kbの挿入DNA 断片を有しているがさらに得られた断片のうち必要な部 分だけに小型化するために、プラスミド pBluescript II (ストラタジーン社より市販) ヘピオチンシンセタ -ゼをコードする遺伝子を含むDNA断片を下記のとお りサブクローニングした。

【0074】上記(D)項で得たプラスミドpHSG3 99-bio5.5を制限酵素Hind IIIおよびS 20 示す。 aclで切断したものと、プラスミド pBluescript II を制限酵素Hind IllおよびSac Iで切断したも のを混合し、50mlトリス緩衝液 (pH7.6)、10ml ジチオスレイトール、1 ml ATP、10 ml MgClz 及びT4DNAリガーゼ lunit の各成分を添加し(各成 分の濃度は最終濃度である)、12℃で15時間反応さま

*せ、結合させた。

【0075】得られたプラスミド混液を用い、前記の方 法に従い前記エシエリヒア・コリR875(bioB1 7)株を形質転換し、アンピシリン50gを含む選択培 地 [K2HPO4 7g、KH2PO4 2g、(NH4)2SO4 1g、MgSO4・7H2O0.1g、カザミノ酸10g、 グルコース2g及び寒天16gを蒸留水11に溶解]に

24

【0076】この培地上の生育株を常法により液体培養 し、培養液よりプラスミドDNAを抽出し、該プラスミ ドを制限酵素により切断し、アガロースゲル電気泳動を 用いて調べたところ、プラスミド pBluescript IIの長 さ2.95kbのDNA断片に加え、長さ約1.7kbの挿入 DNA断片が認められた。各種の制限酵素で切断したと きの、長さ約1.7kbのDNA断片の制限酵素認識部位 数および切断断片の大きさは前記表3に示したとおりで あつた。このDNA断片の制限酵素切断点地図を図1に

【0077】また上記で得たプラスミドを各種制限酵素 で切断して、切断断片の大きさを測定した。その結果を 下記の表5に示す。

[0078]

【表5】

4.65

表5 プラスミドpBS-bioB-HS1.7 制限酵素 認識部位数 切断断片の大きさ (kb) Hind III 1 4.65 Sac I 1 4.65

1

上記の制限酵素により特徴づけられるプラスミドをp BS-bioB-HS1.7とと命名した。

Hiac I I

【0079】以上により、ピオチンシンセターゼをコー ドする遺伝子 (bioB) を含む大きさが約1.7kbの DNA断片 (Hind III-Sac I断片) を得るこ とができた。

[0080]

(bioB)の塩基配列の決定実施例2の(E)項で得 られたピオチンシンセターゼをコードする遺伝子(bi oB)を含む長さが約1.7kbのDNA断片について、

その塩基配列をプラスミドpUC18またはpUC19 を用いるジデオキシヌクレオチド酵素法(dideoxy chai n termination 法) (Sanger, F. et al., Proc. Nat. Acad. Sci. USA74、5463、1977) により図2 に示した戦略図に従つて決定した。その塩基配列中のオ プンリーデングフレームの存在から、ピオチンシンセタ ーゼをコードする遺伝子(bioB)は、下記の配列を 【実施例3】ピオチンシンセターゼをコードする遺伝子 40 有する334のアミノ酸をコードする1002の塩基対 より構成されていることが判明した。

[0081]

【化7】

15

25

【配列表】

配列番号:1 配列の長さ:1005 配列の型:核酸 似の数:二本級

トポロジー: 医療状 記列の登載: genomic DNA

松耳

生物名:ブレビバクテリウム フラバム (Brevibacterion flavon)

存 名: NJ-233

起列の特徴

特徵を表す記号:peptide 存在位置:1-1002

特徴を決定した方法:5

配列

ATG ACA ATC CCC GCC ACC ATC CTT GAC ACC GCC CGC ACC C4A GTT CTG 48

Met Thr Ile Pro Ale Thr 13e Leu Asp Thr Ale Arg Thr Glo Val Leu

5 10

GAA CAG GGA ATT GGC CIT AAT CAG CAG CAG ITG ATG SAG GIT CTC ACC 98 Glu Glo Gly Ile Gly Leu Aso Glo Glo Glo Lou Met Glu Val Leu Thr

25 30

TTG CCT GAA GAG CAA ATC CCA GAC TTG ATG GAA TTA GCC CAC CAG GTT 144
Lou Pro Glu Glu Glu Ile Pro Asp Leu Het Glu Leu Ala Bis Glu Val

5 40

CGG TIG AAG IGG TGI GGA GAG GAA AIC GAG GTA GAG GGC AIT AIT TCC 182
Arg Lou Lym Trp Cyo Gly Glu Glu ile Glu Val Glu Gly lle lle Ser

50

20

30 【化8】

[0082]

27 CTC AAA ACT GGC GGT TGC CCT GAA GAT TGC CAT TTC TGC TCA CAG TCT 240 Les Lys Thr Gly Gly Cys Pro Glu Asp Cys Bis Phe Cys Ser Gla Ser 85 70 75 80 GGG TTG TIT GAA ICG CCG GIG GCT ICG GTG TGG CTG GAT ATT GCG AAT 288 Gly Leu Phe Glu Ser Pro Val Ala Ser Val Trp Leu Asp Ile Pro Asp 85 90 95 CTG GTT GAA GCC GCT AAA CAG ACC GCA AAA ACT GGC GCT ACC GAA TTC 338 Leg Val Gle Ala Ala Lys Glo Thr Ala Lys Thr Gly Ala Thr Gle Phe 100 105 110 GAT TTC GTC GCC GCA GTC AAG GGG CCT GAT GAG AGG CTC ATG ACC CAG 384 Asp Phe Val Ala Ala Val Lys Gly Pro Asp Glu Arg Leu Net Thr Gla 115 120 125 CTG GAG GAA GCA GTC CTC GCG ATT CAC TCT GAA GTT GAA ATT GAA GTC 432 Lou Glu Glu Ala Val Lou Ala Ile His Ser Glu Val Glu Ile Glu Val 130 140 SCA GCA TCG ATC GGA ACG ITA AAT AAG GAA CAG GTG GAT CGC CTC GCT 480 Ala Ala Ser Ile Gly Thr Leu Asn Lys Glu Glo Val Asp Arg Len Ala 145 155 160 GCT GCC GGC GTG CAC CGC TAG AAC CAT AAT ITG GAA ACT GCG CGT TCC 528 Ala Ala Gly Val His Arg Tyr Asn His Asn Leu Glu The Ala Arg Ser 165 170 175 TAT ITC CCT GAA GTT GTC ACC ACT CAT ACA IGG GAA GAS CGC CGC GAA 578 Tyr Phe Pro Glo Val Val Thr Thr Bis Thr Trp Glu Glo Arg Arg Glu 180 185 081 ACT THE COC CIE GTE GCA GAA GCT GGA ATE GAA ETC TET TEC EGC EGA 824 The Leu Arg Leu Val Ala Glu Ala Gly Met Glu Val Cys Ser Gly Gly 195 200 ATC ITA GGA ATG GGC GAA ACT TTA GAG CAG CGC GCC GAG TTT GCC GTG 672 He Leo Gly Net Gly Glo Thr Leu Glo Glo Arg Ala Glo Phe Ala Val 【化9】

[0083]

—517—

255

30

特開平4-278088

230

245

29

225

210

215 220

CAG CTG GCG GAS CTT SAT COC GAC GAS GTC CCC ATG AAC TTC CTT GAT 720

Gla Leu Ala Glu Leu Asp Pro Asp Glu Val Pro Het Asa Phe Leu Asp

CCT CGC CCG GGC 1CC CCA TTT GCC GAT AGG AAT GTA TGG ACA GCC GTG 768

235

Pro Arg Pro Gly Tor Pro Phe Ala Asp Arg Asa Val Trp Tor Ala Val

ACE CTC TGG CCT CAT ATT GGT GCG TTC CGC CTT GCG ATG CCT CAC ACC 818

250

Thr Lou Irp Pro Bis Ile Gly Ala Phe Arg Leu Ala Met Pro Bis Thr

260 285 270

ATG CTT CGT TIT GCT GGC GGT CEC GAG CTG ACT TTG GGC GAC AAG GGT 884

Net Lea Arg Phe Ala Gly Gly Arg Glu Lou The Lou Gly Asp Lys Gly

275 280 285

TCC GAG CAA GCC CTC CTG GGA GGC ATC AAT GCG ATG ATC GTC GGA AAC 912

Ser Glu Gln Ala Leu Leu Gly Gly Ile Asn Ala Net Ile Val Gly Asn

290 295 300

TAC CTG ACC ACG CTC GGC CGC CCA ATG GAA GAT GAC CTC GAC ATG ATG 980

Tyr Leu Thr Thr Leu Gly Arg Pro Met Glu Asp Asp Leu Asp Set Mct

305 310 315 320

GAT CGT CTC CAG CTG CCC BTC ANA GTC CTI AAT AAG GTC ATC TAA

Asp Arg Leu Gla Leu Pro Ile Lys Val Leu Asa Lys Val Ile

325

[0084]

【実施例4】コリネ型細菌内で複製し安定なプラスミド ペクターpCRY30の作成

(A)プラスミドpBY503の腐製

プラスミドpBY503は、プレビパクテリウム・スタ F7-251 5) から分離された分子量約10メガダルトンのプラス ミドであり、特開平1-95785号公報に記載のよう *30* にして調製した。半合成培地A培地[尿素2g、(NH 4)2 SO4 7g, K2HPO4 0.5g, KH2PO4 0.5 g, Mg SO₄ 0.5g, Fe SO₄ · 7H₂O 6mg, Mn SO4・4~6H2O 6mg、酵母エキス2.5g、力ザミ ノ酸 5g、ピチオン200μg、塩酸チアミン200μ g、グルコース20g及び純水11] 11に、プレビバ クテリウム・スタチオニス1FO12144を対数増殖 期後期まで培養し、菌体を集めた。 得られた菌体を 10 mg/mlの濃度にリゾチームを含む緩衝液 [25mlトリス A、50 叫グルコース] 20 mlに懸濁し、37℃で1時 間反応させた。反応液にアルカリーSDS液 [0.2N] NaOH、1% (W/V) SDS] 40mlを添加し、緩や かに混和して室温にて15分間静置した。次に、この反 応液に酢酸カリウム溶液 [5M酢酸カリウム溶液60m 1、酢酸11.5回、純水28.5回の混合液] 30回を 添加し、充分混和してから氷水中に15分間静置した。

【0085】溶菌物全量を遠心管に移し、4℃で10分 間、15,000×gの遠心分離にかけ、上澄液を得 た。

【0086】これに等量のフエノールークロロホルム液 (フエノール:クロロホルム=1:1混和液)を加え懸 濁した後、遠心管に移し、室温下で5分間、15,00 0×gの遠心分離にかけ、水層を凹収した。水層に2倍 量のエタノールを加え、~20℃で1時間静置後、4℃ で10分間、15,000×gの遠心分離にかけ、沈澱 を回収した。

【0087】沈澱を減圧乾燥後、TE緩衝液[トリス1 0 M、EDTA1 M;HClにTpH8.0に調整] 2 ml に溶解した。溶解液に塩化セシウム溶液 [5倍濃度のT E緩衝液100mlに塩化セシウム170gを溶解させた 液] 15 mlと10 mg/mlエチジウムプロマイド溶液1 ml を加えて、密度を1.392g/mlに合わせた。この溶液 を12℃で42時間、116,000×gの遠心分離を 行つた。

【0088】プラスミドpBY503は紫外線照射によ り遠心管内で下方のパンドとして見い出される。このパ (ヒドロキシメチル) アミノメタン、10mmのEDT 40 ンドを注射器で遠心管の倒面から抜きとることにより、 プラスミドpBY503を含む分面液を得た。

> 【0089】次いでこの分面液を等量のイソアミルアル コールで4回処理してエチジウムプロマイドを抽出除去 し、その後にTE鍛衝液に対して透析を行つた。このよ うにして得られたプラスミドpBY503を含む透析液 に3M酢酸ナトリウム溶液を最終濃度30m低添加した 後、2倍量エタノールを加え、−20℃1時間静置し た。この溶液を15,000×gの遠心分離にかけてD NAを沈降させ、プラスミドpBY503を50μg得

50 た。

塗抹した。

31

[0090] (B) プラスミドベクターpCRY30の 作成

プラスミドpHSG298 (宝酒造製) 0.5 µgに制限 酵素SalI (5 units) を37℃1時間反応させ、プ ラスミドDNAを完全に分解した。

【0091】前記(A) 項で調製したプラスミドpBY 503の2 µgに制限酵素XhoI(lunit)を37℃で30分間反応させ、プラスミドDNAを部分分解した。

【0092】両者のプラスミドDNA分解物を混合し、 網限酵素を不活性化するために65℃で10分間加熱処理した後、該失活溶液中の成分が最終濃度として各々5 0刷トリス緩衝液pH7.6、10M MgCl1、10M ジチオスレイトール、1M ATP及びT4DNAリガーゼ1unitになるように各成分を強化し、16℃で15 時間保温した。この溶液を用いてエシエリヒア・コリJ M109コンピテントセル(宝酒造製)を形質転換した。

【0093】形質転換株は30μg/ml (最終濃度)のカナマイシン、100μg/ml (最終濃度)のIPTG 20 (イソプロピルーβーDーチオガラクトピラノシド)1 00μg/ml (最終濃度)のXーgal (5ープロモー4ークロロー3ーインドリルーβーDーガラクトピラノシド)を含むし培地 (トリプトン10g、酵母エキス5g、NaCl 5g及び純水11、pH7.2)で37℃にて24時間培養し、生育株として得られた。これらの生育株のうち、白いコロニーで生育してきたものを選択し、各々プラスミドをアルカリーSDS法 [T. Maniatis, E. F. Fritsch, J. Sambrook, "Molecular cloning" (1982) p90~91参照]により抽出した。30

【0094】その結果、プラスミドpHSG298のSalI部位にプラスミドpBY503由来の約4.0kbの断片が挿入されたプラスミドpHSG298-oriが得られた。

【0095】次に同様の方法を用い、前記(A)項で得られたプラスミドpBY503DNAを制限酵素Kpnl及びEcoRIにて処理して得られる約2.1kbのDNA断片を上記プラスミドpHSG298-oriのKpnl及びEcoRI部位にクローニングし、プラスミドベクターpCRY30を調製した。

[0096]

【実施例5】プラスミドpCRY30-bio2の作成 及びコリネ型細菌への導入

実施例2の(E) 項で得られたプラスミドpBS-bioB-HS1.75μgを制限酵素Hind III 及びSac I を各々5unil づつ用い、37℃で1時間反応さ

せ分解したものと、実施例4の(B) 項で得られたプラスミドpCRY30 1 μgを制限酵素EcoRI 1 unitを用い、37℃で1時間反応させ分解したものを混合し、S1ヌクレアーゼで処理することにより平滑末端とした後、50mlトリス緩衝液 (pH7.6)、10mlジチオスレイトール、1ml ATP、10ml MgCl2 およびT4 DNAリガーゼ1 unitの各成分を添加し(各成分の濃度は最終濃度である)、12℃で15時間反応させ結合させた。このプラスミドを用いて、前記方法に従いエシエリヒア・コリR875 (bioB17)株を形質転換し、カナマイシン50μg/mlを含む選択培地[K2HPO47g、KH2PO42g、(NH4)2SO41g、MgSO4・7H2O0.1g、カザミノ酸10g、グルコース2g及び寒天16gを蒸留水11に溶解]に

32

【0097】この培地上の生育株を常法により液体培養し、培養液よりプラスミドDNAを抽出し、該プラスミドを制限酵素により切断し、アガロースゲル電気泳動を用いて調べたところ、プラスミドpCRY30の長さ8.6kbのDNA断片に加え、大きさ1.7kbの挿入DNA断片が認められた。

【0098】上記の如く調製されたプラスミドDNAを、コリネ型細菌へ形質転換した。

【0099】形質転換は、電気パルス法を用いて行つた ブレビパクテリウム・フラパムMJ-233(FERM BP-1497) プラスミドpBY502除去株を1 0 0mlの前記A培地で対数増殖初期まで培養し、ペニシ リンGを1ユニツト/mlになるように添加して、さらに 2時間振盪培養し、遠心分離により菌体を集め、菌体を 20mlのパルス用溶液(272ml Sucrose、7ml KH2 PO4、1ml MgC12:pH7.4) にて洗浄した。 さら に菌体を遠心分離して集め、5mlのパルス用溶液に懸濁 し、0.75mlの細胞と、前記で得られたプラスミドD NA溶液50μ1とを混合し、水中にて20分間静置し た。ジーンパルサー (パイオラド社製) を用いて、25 00ポルト、25μFDに設定し、パルスを印加後氷中 に20分間静置した。全量を3mlの前記A培地に移し3 **0℃にて1時間培養後、カナマイシン15 μg/ml(最** 終濃度)を含む前配A寒天培地に植菌し30℃で2~3 40 日間培養した。出現したカナマイシン耐性株より、前記 実施例4(A)項に記載の方法を用いてプラスミドを得 た。このプラスミドを各種制限酵素で切断して、切断断 片の大きさを測定した。その結果を下記の去6に示す。

【0100】 【表6】

表6 プラスミドpCRY30-bio2

制限酵素	認識部位数	切断断片の大きさ	(kb)
Xho I	1	10. 3	
BanH 1	1	10.3	

Kpn I 10.3 1 Sac I 1 10.3 8.6 \ 1.7 Sph I

上記制限酵素により特徴づけられるプラスミドをpC RY30-bio2と命名した。このプラスミドpCR **Y30-bio2の制限酵素地図を図3に示す。なお、** プラスミドpCRY30-bio2により形質転換され たプレビバクテリウム・フラバムMJ-233-bio 生物工業技術研究所に、平成3年2月26日付で: 微工 研菌寄第12040号 (FERM P-12040) と して寄託されている。

[0101]

【実施例 6】 プラスミド p C R Y 3 0 - b i o 2 の安定 性

前記のA培地100mlを500ml容三角フラスコに分注 し、120℃で15分間滅菌処理したものに、実施例5 で得た形質転換株MJ-233-bio2を植菌し、3 0℃にて24時間振盪培養を行つた後、同様にして調製 20 したA培地100mlを500ml容三角フラスコに分注 し、120℃で15分間滅菌したものに、1ml当たり5 Ocells の割合になるように植籬し、同じく30℃にて 24時間振盪培養を行つた。次に遠心分離して集菌し、 菌体を洗浄後、カナマイシンを15μg/nlの割合で添 加したA培地及び無添加のA培地を用いて調製した平板 培地に一定量塗抹し、30℃にて1日培養後生育コロニ ーをカウントした。

【0102】この結果、カナマイシン添加および無添加 培地に生育したコロニーは同数であること、さらにA培 30 地生育コロニーは全てカナマイシン添加培地に生育する こと、すなわち該プラスミドの高度の安定性を確認し た。

[0103]

【実施例7】ビオチンシンセターゼの製造

培地(尿素 0.2%、硫酸アンモニウム 0.7%、KH2 PO4 0.05%, K2HPO4 0.05%, MgSO4. 7H2O 0.05%, FeSO. 7H2O 6ppm, Mn SO4・4~6H2O 6ppm、チアミン・HC1 100 $\mu g/1$ 、及びピオチン200 $\mu g/1$) 100mlを50 40 Oml容三角フラスコに分注、滅菌(滅菌後pH7.0) し た後、プレビバクテリウム・フラバムMJ-233-b 102株を植図し、無菌的にグルコースを最終濃度2% (V/V) なるように加え、30℃にて3日間振とう培養 を行つた。

【0104】対照としてプラスミドpCRY30-bi o 2 を保持しないブレビパクテリウム・フラパムM J -233株を植菌し、同様に培養を行つた。

【0 1 0 5】培養液をペツクマン遠心機 Mode! J2-21を用いて、8000rpmで10分間、遠心し、菌体 50 酵素の菌体内への高度蓄積が可能となる。

を集菌する。本試量菌体約5mgに、0.5M Tris-HC 1 (pH6.8) を0.125ml、10% (W/V) SDSを $0.200 \text{ nl}, \beta - \lambda \nu \tau \tau \tau - \nu \epsilon 0.050 \text{ nl}$ を添加し、水で全量を 1.0mlに合わせる。この試料液 を沸騰水中で約3分間処理する。上記の試料液 1 ml に対 2は、茨城県つくば市東1丁目1番3号の工業技術院徴 10 して、0.05% (W/V) BPBと70% (V/V) グリセ ロールを含む10mNリン酸ナトリウム級衝液(pH7. 0)の0.1mlを加えたものを泳動用試料液とする。

34

【0106】試料液を「第一化学薬品(株)」製SDS -PAGプレート10/20-1010を用い、試料を 5 μ1アプライした後、60mAの定電流で、約60分間 泳動する。

[0 1 0 7] Coomassie Brilliant Blue R-25000.25% (W/V) (正味の濃度) を含むエタノールー酢 酸-水(9:2:9、V/V)混液にゲルプレートを浸し て分離ゲル中の試料蛋白質の染色を行う。 室温で約6時 間染色した後、エタノール、酢酸、水(25:8:6 5、Y/Y) 混液 (脱色液) に浸し、軽く振盪し、直ち に、新しい脱色液と交換する。以後は、約1時間ごとに 新しい脱色液と交換する。この脱色操作を分離ゲル中の 蛋白質のパンドがかなり明瞭に見えるようになるまで繰 り返す(3~5時間)。つぎに、分離ゲルをメタノール 一酢酸一水(10:15:175、V/V) 混液 (保存) 液)に浸して、蛋白質の存在していない部分(パツクグ ランド)を完全に脱色する。かくして、ゲル上に分子量 約3万のタンパク質のパンドとして染色されていること により、ピオチンシンセターゼが菌体内で産生されてい ることを確認することができる。このパンドの濃度を、 フアルマシア社製「Ultro Scan XLレーザーデンシト メーター」を用いて、測定した結果、プレビパクテリウ ム・フラパムMJ-233-blo2株中に含まれるビ オチンシンセターゼの含量は、pCRY30-bio2 を保持しないプレビパクテリウム・フラパムMJ-23 3株に比べて、約5倍に上昇していることが明らかとな つた。

[0108]

【発明の効果】本発明の新規なDNA断片は、コリネ型 細菌のピオチン生合成に関与する酵素にうち、ピオチン シンセターゼをコードする遺伝子(bioB)を含むD NA断片であり、該DNA断片を含む本発明のプラスミ ドを用いることにより、コリネ型細菌に属する微生物の 遺伝子操作による改良が可能となる。

【0109】また、このようにして改良された本発明の コリネ型細菌に属する微生物を培養することにより、微 生物菌体内でピオチンシンセターゼの産生が増加し、該

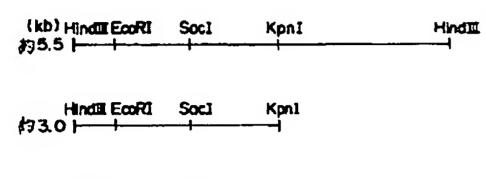
技術表示箇所

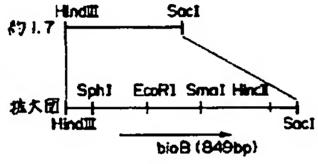
35

【図面の簡単な説明】

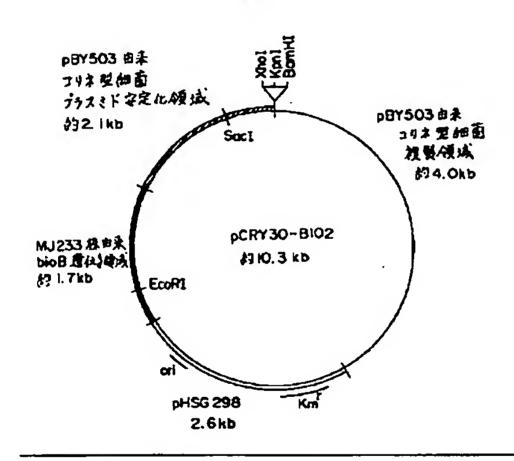
【図1】 本発明のビオチンシンセターゼをコードする 遺伝子(bloB)を含むDNA断片の制限酵素による 切断点地図。

[図1]





【図3】

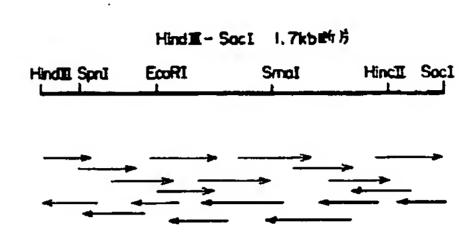


36

【図2】 大きさが約1.7kbの本発明DNA断片の塩 基配列決定のための戦略図。

【図3】 本発明のプラスミドpCRY30-bio2の制限酵素切断点地図。

【図2】



フロントページの続き

識別記号 (51) Int. Cl. ⁵ 庁内整理番号 FI //(C 1 2 N 15/52 C 1 2 R 1:13) (C 1 2 N 15/52 C 1 2 R 1:15) (C12N 1/21 C 1 2 R 1:13) (C12N 1/21 C 1 2 R 1:15) (C12N 9/00 C 1 2 R 1:13) (C12N 9/00

C 1 2 R 1:15)

(72) 発明者 小林 幹

茨城県稲敷郡阿見町中央8丁目3番1号三 菱油化株式会社筑被総合研究所内 (72)発明者 久留主 秦朗

茨城県稲敷郡阿見町中央8丁目3番1号三 菱油化株式会社筑波総合研究所内

(72)発明者 湯川 英明

茨城県稲敷郡阿見町中央8丁目3番1号三 菱油化株式会社筑波総合研究所内